

| 第1回地区懇談会（宮寺・二本木地区）の概要   |   |
|---|---|
| 日 時   | 平成29年7月31日（月）午後7時～午後9時  |
| 場 所   | 宮寺公民館   |
| 出席委員  | 内田博委員 岡崎幸子委員 小山茂委員 関谷英雄委員<br>田邊利雄委員 土屋浩二委員 友野鶴彦委員 中村隆委員<br>長谷川馨一委員 山桐充夫委員 山崎國男委員 吉川貞雄委員 |
| 欠席委員  | 黒川亜樹委員 吉川勇委員  |
| 傍聴者   | 6名  |
| <p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮寺地区は、住環境、自然環境が良い。ただし、余り公共交通の便は良くないので、現在自動車の運転ができる高齢者も10年後に運転できるとは限らない。公共交通の検討も進んでいるようであるが、高齢者の足の確保をお願いしたい。</li> <li>・市内全域を対象にした会合や集会は、人口の多い豊岡や藤沢地区で開催されることが多い。宮寺地区は、人口が少ないのでやむを得ないが、宮寺・二本木地区にも目を向けて欲しい。</li> <li>・二本木地区も宮寺地区同様、住環境、自然環境が良い。</li> <li>・宮寺・二本木地区には、農地が多いが、この農地をどうしていくかが地区の課題ではないか。これまで農地を守ってきた住民も高齢化し、子ども世代（サラリーマン）が引き継げるとは思えない。</li> <li>・学校の配置については、人口が多い地域の学校に統合するという考えなのか。</li> </ul> <p>→地区によって考え方が異なる。人口密集により、既存施設を活用せざるを得ない地区と、他の土地へ移設する余地がある地区があり、実現可能な条件の中で、地区にとって良い配置を探っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設（建築物）の再整備・再配置のことも重要だが、体育施設（グラウンド等）についても市として検討すべき事項である。近隣の自治体と比較しても体育施設は見劣りするるので、1箇所でも良いので、目玉となる体育施設を整備したらどうか。</li> <li>・市が作成した資料を読んだり、昨今の社会情勢を踏まえると、将来、子や孫の世代が、相当苦勞すると感じる。次世代が、明るい未来が迎えられるよう高齢者の方にも協力いただき、多少の我慢もして欲しい。人間市を1つの会社に例えると、破たんしないよう頑張ってもらいたい。時代が変わったので、次世代のためになる政策を講じて欲しい。</li> <li>・宮寺小学校の児童数は少ない状況であるが、国道16号の北側（上側）の地域に通うのは遠い。統合するのであれば、スクールバスを検討すべきである。ただし、人口が少ないからと言って、人口の多い地域に小学校が移されてしまうことには納得がいかない。市は、宮寺地区に人口を増やすための施策を取るべきである。一例としては、市街化調整区域（農地）の見直しが考えられる。</li> </ul> |   |

→市街化編入などについては、市全体のまちづくりから考えなくてはならない問題である。

- ・住んでいて、隣近所とのつながりが希薄になってきたように感じる。引っ越してきたから、数十年経ち、世帯主の世代交代の時期に来ている。子ども世帯は、地域との関わりが少なかったのが、現行のコミュニティに入っていけないのが現状である。

- ・私は、地方の出身であるが、運動会は村をあげて実施していた。当時、給食はなく、児童・生徒は家から弁当を持ってきた。弁当を持って来れない者には、クラスの子から貰ったりしていた。こうした近所同士の結びつきは、今はないと思う。

- ・公共施設を利用する際、手続きが煩雑であるため、簡単にして欲しい。

- ・公共施設を統廃合する前に、使用料を見直すなど、市として考えられる方策があるのではないかと。施設は、住民が不要というまで、廃止してはならない。

- ・若い世代は共働きが多い一方で、高齢者は日中自由な時間がある人も多い。高齢者には自立してもらうとともに、地域の活動に参加できる仕組みを考えて欲しい。

→他の地区の懇談会で、公民館の役割が以前と変わってきているという意見があった。今後、ニーズを把握して求められるサービスや運営形態を検討していきたい。

- ・市民活動センター1階のように、公民館内に机と椅子があれば、子ども達が集い勉強する場になる。入間で子育てがしたいと思わせる施策を展開して欲しい。

- ・台湾では、戦前、日本人が建設した施設がリニューアルされ、大事に使われている。公共施設マネジメントの参考にして欲しい。

- ・近年、空き家が目立つようになったので、空き家の活用も課題ではないか。

- ・事業計画は、先々まで見通せない中で策定することになるが、途中、見直しはあるのか。

→事業計画は、総合計画と時期を合わせて10年間の計画を3本設定する。今後、情勢が変化することもあるので、時点修正は考えている。

- ・人口を増加させる施策は打たないのか。

→市では、人口減少対策等を踏まえて、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。ただし、それでも人口減少は避けられないと考えている。

- ・公共施設の統廃合ありきで進めてしまうと、成り立たない（合意形成できない）のではないかと。

→市としては、取組みの背景や目的を理解してもらうとともに、ハードウェアだけでなく、施設機能や提供するサービスに注目して、施設は減ってもサービスが充実するように、様々な方法を検討している。地区懇談会では、ソフトウェアに対する意見もいただきたい。

| 第 2 回地区懇談会（宮寺・二本木地区）の概要   |   |
|---|---|
| 日 時   | 平成 29 年 8 月 16 日（水）午後 7 時～午後 9 時                                    |
| 場 所   | 二本木公民館  |
| 出席委員  | 内田博委員 岡崎幸子委員 黒川亜樹委員 関谷英雄委員<br>土屋浩二委員 友野鶴彦委員 山桐充夫委員 山崎國男委員<br>吉川貞雄委員 |
| 欠席委員  | 小山茂委員 田邊利雄委員 中村隆委員 長谷川馨一<br>吉川勇委員                                   |
| 傍聴者   | 6 名   |
| <p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の地区センター化は、いつ頃実施するのか。</li> <li>→現時点では、向こう 10 年程度を予定している。</li> <li>・宮寺公民館を地区センター化する案が示されたが、昨年の豪雨で周辺が水浸しになっている。水害の避難所としては不適當ではないか。</li> <li>・市の考えた配置案を書面で示して欲しい。複数案を示して、市として良いと思った案を示さないのは、意図的なものなのか。</li> <li>→決定事項ではないので、現時点では複数案を示し、その中から優位性が高いと思われる案を示した。これは、他の地区での意見を踏まえて示したものである。</li> <li>・先に市が考えた優位性を示されてしまうと、誘導されているように感じる、是非、フラットな意見交換が行いたい。</li> <li>→個々の施設を見ただけでは、地区全体のバランスが見えないと思い、施設の組合せを含めて、説明をした。</li> <li>・宮寺小学校は、地域の核となっている施設であり、存続が望まれる。廃止となると地域住民との合意形成は難しいのではないか。</li> <li>・近所の老人憩いの家は、老人クラブよりも自治会の利用が多いと感じる。この施設は、和室となっているが、高齢者が座るのは大変なようだ。</li> <li>・児童・生徒が減るから学校を統廃合するのではなく、住民を増やす方法を同時に考えるべきである。学校がなくなると、住民が減る。志木市では、小学校と保育園を複合化して成功した事例もある。保育所も宮寺地区、二本木地区それぞれ必要ではないか。</li> <li>→入間市でも、小学校と保育所の複合化は検討している。ただし、校庭や遊具校舎などを分ける必要があり、まとまった広さの土地が必要である。複合化については、今後も検討する。</li> <li>・小学校の統廃合は、地域の歴史を変えることもあるので、よく考える必要がある。一方、市の財政が厳しいことを考えると公共施設マネジメントの必要性は理解できる。母校がなくなることは悲しいことでもあるので、一定の配慮が必要ではないか。</li> </ul> |   |

- ・公共施設マネジメントの取組の原点は、財政、人口減少、施設の老朽化であるが、人口を増やすことはできないものか。
- 人口については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、減らさない努力をしている。また、農地の開発については、国の政策上難しいようだ。
- ・宮寺・二本木地区は、ただでさえ人口が少ない地区である。子どもの通学環境が悪化した場合の影響を考えているか。
- ・将来、税金を納める世代が住みにくいまちになってしまうと、税収も減るのではないか。また、入間市全体が過疎化してしまうのではないか。施設の問題だけではない。
- 市としては、学校の数は減るが、残す学校には集中的に投資し教育環境を充実させていきたいと考えている。マイナス面もあるがプラス面もあり、総合的に考えていきたい。
- ・教育環境の充実というのは、施設統合に対する苦肉の策に思える。目先の損失だけに捉われない方が良いと感じる。
- ・財政難による子ども達への影響は避けたいので、できれば小学校は2校とも残したい。しかし、どうしても1校にしなければならないのであれば、両校を廃止して中間に建設する案が良いのではないか。
- ・二本木公民館は、平成18年に完成したのに、地区センターが宮寺地区に行ってしまうのは納得できない。二本木地区は、貧乏くじを引いているようだ。宮寺公民館周辺は、水害が考えられるので、よく考えて施設を配置して欲しい。
- 二本木公民館の施設自体をどのように残していくかは、今後検討したい。
- ・宮寺地区の子どもが狭山小学校に通うには、国道16号を横断しなければならない。武蔵中学校に自転車で通学する生徒がいるが、国道16号の横断で、危険を感じる時もある。
- ・所沢市の事例では、大規模な団地の中に小学校が建設され、当初1,000人いた児童が約20年で120人位になり、統合となった事例がある。地域に増設された学校であるため、反対も少なかったようで、現在では生涯学習センターになっている。転用の際、思いのほか改修費用がかかったようである。
- ・市の9地区の地区区分は統廃合する際の基準として分かるが、1地区に複数小学校や公民館があっても良いのではないか。
- ・公民館は、地域活動の拠点であり、交流の拠点でもある。地区センター化により、職員の配置や業務量はどのようになるのか。
- 具体的な配置等については、今後の検討となるが、地域に拠点施設を設置することで、本庁の業務の見直しも考える必要がある。
- ・宮寺・二本木地区は、地区内でサービスや機能の充実を図る必要があると思うが、町中の地区と同じように考えない方が良いのではないか。

- ・博物館が災害拠点となっているが、この機能は、建設当初考えられていなかったと思う。施設を残す理由として、機能を付すのはいかがなものか。これは、公共施設マネジメントの考え方なのか。
- 博物館が、防災拠点施設に位置付けられているのは、地域防災計画によるもので、公共施設マネジメントの計画を検討する以前から、設定されていた事項である。
- ・市が提示した宮寺公民館を活用した場合の全体像を見せて欲しい。
- 次回、冒頭説明した案を書面として提示したい。
- ・地区懇談会での発言にはリスクを感じる。地域の代表として、どうしても慎重な意見になってしまう。

| 第3回地区懇談会（宮寺・二本木地区）の概要  |   |
|--|---|
| 日 時  | 平成29年9月25日（月）午後7時～午後9時  |
| 場 所  | 二本木公民館  |
| 出席委員   | 岡崎幸子委員 小山茂委員 黒川亜樹委員 関谷英雄委員<br>土屋浩二委員 友野鶴彦委員 山桐充夫委員 山崎國男委員<br>吉川貞雄委員 |
| 欠席委員   | 内田博委員 田邊利雄委員 中村隆委員 長谷川馨一委員<br>吉川勇委員                                 |
| 傍聴者  | 6名  |
| <p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮寺小学校の児童が狭山小学校へ通うとなった場合、遠い児童でどのくらいの距離になるのか。</li> <li>→次回までに確認しておく。</li> <li>・宮寺小学校は、伝統がある。狭山小学校に統合し廃止となると、地域住民を納得させることは難しいのではないかと。小学校のことで、こじれたら大変なことになる。</li> <li>→事務局案は、既存施設を活用した場合の案であり、地区懇談会の意見を踏まえて、他の場所への移転についても考える必要がある。</li> <li>・事務局案では、地区センターを宮寺公民館としているが、一方で、二本木公民館の施設の活用方法が見えてこない。職員配置などが見えない中で、判断することは難しい。職員が配置されれば、老人会など、事務局と関わっていけるので、その点にも留意して欲しい。</li> <li>→事務局案としては、二本木公民館は、地元の方にとって使い勝手が良い施設にしていきたい。主に、部屋貸しの施設を想定しているが、運営体制など詳細は、全体の施設配置を踏まえて、今後詰めていくことになる。</li> <li>・志木市の事例であるが、小学校を複合施設としたことで、施設需要が高まったと聞いている。事務局案では、宮寺小学校は廃止となっているが、保育所などと複合化を行い、体育館については、地区体育館を一般と共用するなどして、両校（狭山小学校と一緒に）残す方法はないか。この方が、地域にとっても良いと思う。経費削減という理由だけでは、住民が納得しないと思う。宮寺・二本木地区は、案外広い。統廃合は慎重に検討すべきである。</li> <li>・民間保育園と公立保育所の保育料は、同じなのか。</li> <li>→原則、同額である。</li> <li>・ゆりかご保育園は、良い施設ができたと思う。公立保育所も、魅力ある施設（建物）づくりをして欲しい。また、きれいな施設になれば、需要も高まると思う。</li> <li>・学校は子どもたちが主役。将来を担う人づくりをする上で、別格ではないか。公民館は減らしても、小学校は減らすべきではないと思う。もう少し大人が我慢できな</li> </ul> |   |

いものか。

→統廃合により通学距離が長くなるデメリットもあるが、児童数が少ない学校で良いのかということも考える必要があるのではないか。

- ・宮寺小学校を廃止するのに、なぜエアコンを設置するのか疑問である。
- ・これから宮寺地区に住もうと思った人が、学校が遠いと知ったら、住みたいとは思わない。市の考えでは、人口を減らすようにしか見えない。削減要素は、他にあるのではないか。市に、何かお願いすると、予算がないからできないといわれるが、予算がないなら事業もできないので、職員を減らして人件費を縮減すべきではないか。
- ・保育所を統廃合した場合、定員の見直しを行うのか。

→まず、保育所に求められているサービス（ニーズ）を把握する必要があると考える。その上で、必要な機能、規模（大きさ）を検討していきたい。低年齢児の受け入れなどを考えると、定員（規模）の見直しは出てくると考えている。

- ・公立保育所は、入所要件が厳しく中々入れない。誰でも入れるようにすべきではないか。
- ・宮寺小学校の話が出ていたが、狭山小学校も二本木地区ができた時から存在し、歴史がある。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の説明があつたが、具体性がない。狭山市は、西武鉄道㈱とコラボレーションして、婚活に取り組むらしい。若者が定住する策を講ずるべきではないか。

→本日の資料は、概要版なので、具体的な取組が見えづらかった。

- ・保育所は、老朽化しているため、統廃合して機能を充実すると書けば、理解を得やすいのではないか。
- ・宮寺小学校を廃止とした理由は、耐用年数の問題なのか。

→宮寺小学校は、建築後50年以上経過しているため、存続する場合でも建替えを検討する時期に来ていることは事実である。一方、統廃合を検討する上では、この他にも様々な要素を整理する必要がある。1つには、地域全体の公共施設の配置バランスがある。また、教育環境にも配慮する必要がある。こうした内容を踏まえると、狭山小学校に通う児童が多いため、既存施設を活用するのであれば、狭山小学校が良いのでないかと提案したものである。ただし、この案は、市が公共施設マネジメントのルールに従って、考えた案であり、地域の特性や住民の考え方を捉えきれていないことから、こうして、皆さんに話を聞きたいと思っている。市としては、この他に、市域全体の配置バランスにも留意すべきと考えている。

- ・豊岡、藤沢地区などの市街地と、宮寺・二本木地区のバランスはとれているのか。先ほど、小学校の通学距離を最長で4kmとすることを市の方針ということで聞いたが、法的根拠はあるのか。小学校から見て、最も遠い通学距離がどのくらいかを知

らないと、話し合いもできない。公共施設マネジメント事業計画は、まち・ひと・しごと創生総合戦略とは反対の方向へ進んでいるように感じる。

・老人憩いの家の存続・廃止の判断は、どのように行なわれるのか。

→利用実態を踏まえて、個別に判断していくこととしたい。

・公共施設マネジメントに対する市民の関心であるが、地区懇談会の委員として、40名程度に話をした。市報に掲載されていても、スルーされてしまっている状況である。

・子どもが複数いた場合、長男は地元に残ることが多いが、その他の子どもは市外に出してしまうケースが多いようだ。工業団地に製造業を誘致して、地元で働く場を確保することが重要である。こうすることで、地元に着住する人が増える。入間市の工業団地は、工業用水がないことが弱点である。工場では多くの水を使うため、地下水（井戸）を活用しているのが実情である。工業用水などインフラの整備も必要ではないか。

| 第4回地区懇談会（宮寺・二本木地区）の概要  |   |
|--|---|
| 日 時  | 平成29年10月17日（火）午後7時～午後9時   |
| 場 所  | 博物館   |
| 出席委員   | 内田博委員 岡崎幸子委員 小山茂委員 黒川亜樹委員<br>関谷英雄委員 田邊利雄委員 土屋浩二委員 友野鶴彦委員<br>中村隆委員 長谷川馨一委員 山桐充夫委員 山崎國男委員<br>吉川貞雄委員 |
| 欠席委員   | 吉川勇委員   |
| 傍聴者  | 6名  |
| <p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮寺公民館が残り、二本木公民館は今後も部屋貸しの機能として利用できるようにするということだが、地区に公民館が2館残ることになる。そうなれば維持管理費は今後もかかることになるが維持管理費は削減できるのか。</li> <li>→現在の公民館としての機能が2館とも残すということは想定していない。施設（建物）は残っても組織は変わるだろう。これまで通り正職員を配置しなくなれば、人件費の削減が見込める。一方で、施設自体は地域に根付いているものであり、直ちに廃止するという事は難しいと考えている。</li> <li>・人件費の削減だけでは大きな削減につながらない。無理して現在の機能を変えたり統合したりする必要があるのか。これまでの懇談会の様子では、公共施設の見直しを行っても住民はあまり変化を感じないのではないか。</li> <li>→施設が減ってもサービスを低下させないようにするのが公共施設マネジメントの考え方である。</li> <li>・公民館は、身近な公共施設であり、地域の活動拠点として利用されていることを考慮して欲しい。他の自治体では、公民館を大切にしまちづくりを行っている。経費の節約だけではなく、住んで良かったと思ってもらえるような取組が大事ではないか。</li> <li>→地区センター化し、より使いやすい施設にすることも目的の一つである。</li> <li>・各地域と行政のパイプ役になるのが公民館だと思う。静岡県富士市はとても良い組織を作っている。入間市の公民館の位置づけはどのようなものなのか。地域の拠点としてももう少し重みがあることを考慮しながら検討して欲しい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まちづくりセンターは、住みよい社会と豊かな生活づくりのために地域の諸団体が活動する場であり、市民の皆さんが集い、学ぶための身近な公共施設です。まちづくりセンターでは、以下の仕事を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.地区住民による主体的なまちづくりを支援すること。</li> <li>2.社会教育法（昭和24年法律第207号）に基づく社会教育事業を行うこと。</li> <li>3.各種手続、届出及び相談に係る行政窓口の紹介並びに連絡調整を行うこと。</li> <li>4.市民サービスコーナーにおいて諸証明の受付及び交付をすること。</li> <li>5.センターの施設及び設備（以下「施設等」という。）を適切に維持管理すること。</li> <li>6.その他市長が必要と認める事業</li> </ol> <p style="text-align: right;">（出典：富士市公式ホームページ）</p> </div> |   |

- 地区センター化に向けては、現行の組織を変えて対応していきたい。地区センターには公民館の他に支所機能、自治振興支援機能、福祉総合窓口、包括支援センターを配置したい。
- ・宮寺公民館は築 34 年である。耐用年数を考えると、ゆくゆくは建替え又は新設移転を考えなければならない。当面、宮寺公民館は修理をして使っていくのか、建て替えるのか、移転するのをはっきりして欲しい。二本木公民館の立地は平らでとても使いやすい。
- 公民館の地区センター化は、第 1 段階として現在の施設を使って一斉に行う。建替えについては耐用年数である築 60 年を基準に考えている。建替えには、数億かかるため、全地区一斉に実施することはできない。移転についても同様で、耐用年数を迎えるときに考える。
- ・地区内には高齢者が多く、20 年、30 年待つことは難しい。現状をよく考えて欲しい。
- 数億規模の事業となるので、整備の順番を付けざるを得ない。なお、二本木公民館の建築には 4 億円程度かかっているので、参考にして欲しい。
- ・昨今、大学で学生の奪い合いをしている。今後は、同様に市民の奪い合いになるだろう。市に魅力が無ければ入間市に移住は望めない。近隣市を見ると魅力的な公共施設がある。狭山市は智光山公園、所沢市には航空公園、青梅市や飯能市は観光地として PR している。この他にも、羽村市の動物園はとても良いところだと思う。しかし、維持管理については、智光山公園の動物園は大変であると思う。維持管理が大変でも維持することでまちの魅力が上がるのであれば住みたいと思う人が出てくるのではないか。入間市の魅力は狭山市と比べて公共施設が多いことである。保育所や学校、公民館は減らさない方が良いのではないか。
- 検討はするが、全体のバランスを見て考える。施設を残すことで維持管理にお金がかかる。
- ・先ほど意見が出ていたように、1 施設廃止しても人件費の削減だけでは大きな金額にはならない。動物園を維持している市は動物園を廃止すれば大きな経費削減になるはずなのに廃止しない。それは市の魅力として残しておきたいからではないか。入間市の魅力は他市よりも公共施設が多いことである。
  - ・狭山市では、通学に可能な範囲の統合を行っている。300m の範囲にある学校を 1 校廃止しているだけで、宮寺・二本木地区と同じように考えてはいけない。
  - ・公民館は建設に 4 億かかると聞いたが、博物館の維持管理費はどのくらいなのか。
- 人件費を含めて 1 年間で約 3 億円と聞いている。
- ・博物館は市民の利用頻度が低く、維持管理費を減らす努力をすべきである。博物館は聖域なのか。また、市役所についても約 80 億円で建替えると聞いた。宮寺・二本木地区は公民館や学校を廃止するのに、市役所を建替えるというのはおかしい。

公共施設マネジメントは、全ての施設を同じ土俵で検討すべきではないか。この計画では、市が残したい建物については「災害拠点」や「健康の維持のため」など理由をつけて聖域にしている。市役所も 2 階建てにすれば耐震機能が少なくても済む。市役所は建て替え、住民に借金を背負わされて我慢しろというのは納得がいかない。市役所でも市民が納得するように努力して欲しい。博物館をなくせとは言わないが、これまで入館料を払ったことは一度もない。博物館の利用は本日の利用のように会議が多く、施設に来てお茶の話をされても、(家の周りは茶畑があるので)今さら聞く気にはならない。

- ・学校を統廃合するということに対して教育委員会の反応はどうか。
- 計画づくりまでは教育委員会の意見も聞きながら進めたが、今回意見を頂いた小中一貫校についてはこれから協議していく。
- ・教育には、ある程度お金をかけた方が良い。
- 教育に関しては施設を減らす分、教育環境を良くしたい。
- ・マンモス校が全て良い訳ではない。先生と生徒のコミュニケーションが密になるのは小規模校である。それぞれ利点と欠点があると思う。
- ・地区内に 2 校ある小学校のうち、周辺の人口が増加し、生徒数が多いという理由で、宮寺小学校より狭山小学校の方が優位性が高いということだが、それに従えば、公民館も二本木公民館を地区センターとすべきではないか。同様に、保育所も二本木に建てれば利便性は良くなるのではないか。二本木にある公共施設を全て廃止されてしまうと地区内に何も残らなくなってしまう。宮寺・二本木地区は自治体加入率も高く結束力が高い地域である。他の地区とは違い、地元へ愛着がある人間が多い。
- ・二本木公民館は今後も貸館として使えるようだが、維持管理は民間に委託するのか。
- 完全に民間委託とするか、管理人を配置するだけかは今後検討する。
- ・老人福祉センターは運営方法が変わり使いにくくなった。委託しても良いが使いにくくならないように運営をして欲しい。
- ・公民館の利用者、関係団体、保護者等へもっと説明してから決めていくべきではないか。公民館利用者からすれば、今までと違う形になることが心配である。
- 地区センターの詳細については、今後 30 年間の計画（大枠）を立てた後に、利用形態等を考慮し、利用者の意見を聞いた上で計画に反映させていきたいが、今年度詳細な計画を策定することは難しい。学校についても保護者の意見を聞くには段階を踏んでいき、具体化したい。
- ・小学校を地区の中間に新設するならば、用地の確保は可能なのか。
- 特定の場所を確保できる目途がある訳ではないが、地区懇談会の意見としてあがった事項なので今後検討したい。
- ・学校は災害拠点となり、安全性の確保や保育所と一体化となるとハードルが高い。
- ・資料 4 のタイトルには地区懇談会意見一覧とあるが、宮寺公民館を残して二本木公

民館を廃止するというのは地区懇談会で出た意見なのか。二本木公民館は新しい施設のため、残した方が良いと思う。

→資料 4 の上部にある地図は市役所で考えた施設配置案である。下部に記載されている文章が地区懇談会の意見であり、同じ紙面に両方記載しているため、施設配置（案）とした。

・狭山小学校には、圏央道の北側から通っている児童がいると聞いた。統合した場合、最も遠い場所から通う児童で、距離はどの程度になるか。

→狭山小学校へ統合すると、宮寺の南部から通う児童が最も遠くなり、道のりで 2.7 km あると見込んでいる。

・教育委員会の方針では、通学距離が最長で 4 km までとしているが、統廃合により国道 16 号を横断しなければならないことが課題である。この場合、スクールバスを設定するというを必ず検討して欲しい。悲しい事故が起こって欲しくない。

・両校を統廃合したら良くなるという面が全く見えてこない。統廃合して今よりも良くならなければ納得できない。

→複合化により、教育環境の充実や残る施設に整備を集中して行えることが利点と考えている。ただし、劇的に良くなることは難しい。

・教育環境の充実ということをもっと強調して説明して欲しい。少し不便になるが、充実した整備できるなど良い点も強調すべきである。

・現在より悪くなることのあるならハッキリ述べて欲しい。いずれにせよ、小学校の統廃合は反対である。通学距離が 2.7 km であっても、小学生が毎日通うことを考えると現実的ではない。スクールバスがあるといつて宮寺・二本木地区に移住する人が増える訳ではない。子どもが育つ環境として、小学校が 1 校になるということは、この地区にとっては劇的な変化である。学校がなくなれば、生産年齢人口も絶対に減る。学校は残すべきである。悪循環が起これば財政破綻も見えてくる。

・地区住民と一緒に活動できる場所が公民館である。二本木公民館が宮寺公民館に機能移転した場合、職員数が増える訳でもなく、両地区で体育祭が一緒に出来るわけでもない。施設を一緒にしても地域の活性化が図れるか心配である。特に二本木の拠点である公民館はコミュニケーションの場であった。宮寺に一本化した場合、これまで通りの活動ができるか危惧している。宮寺・二本木地区は、他の地区とは地域の成り立ちが違うことを考慮して欲しい。

→地域の特性や歴史的背景も踏まえて検討していきたい。

・この地区は地域のつながりが強い。宮寺は不便な点があるが好んで住んでいる。宮寺小学校は、約 10 年程度で耐用年数を迎える。その時に地区の中間地点に移転し新設するのが良いのではないか。国道 16 号を渡って通学することは心配であるが、現時点で狭山小学校へ統合と言われても誰も賛成しないのではないか。反対意見を押し切って、この計画を進めてしまうのか。

- 人数が少ない小学校に対し、子ども達はどう思うのだろうか。友達を増やしたいという子どもの声も聞く。他に、中学生からは部活動の選択肢の問題として、入りたい部活がなかったり、人数が足らず試合に出ることが出来なかったりする。また、少人数の学校では、教員も減らされてしまうため、統廃合を考えた。歴史的背景も踏まえて中間地点に新設することも考えたい。
- ・小学校の統廃合に反対意見が多いようだが、個人的には反対はしていない。現状のまま残すことが住民としては良いと思うが、20年、30年先を考えると、現状のままではいられない。10年後には超高齢社会となり、社会保障費が増える。一方で、税収が見込めないのであれば、廃止がふさわしいという結論が話し合いの末、出されるのであれば反対はしない。博物館の維持管理費の意見もあったが、減らすべきところはあると思う。
- 博物館などの広域対応施設については、他の施設との統合は難しいと考える。近隣市と共同設置や共同利用について、さらに民間への移転も考えられるが、具体案を今提案することは難しい。
- ・長期的に考えても小学校の統廃合は反対である。生産年齢人口が減る中で、学校を減らせば、さらに住民も減る。地域住民としての感情論を除いても学校の統廃合はやめるべきである。学校以外に統廃合や経費を削減できる要素はあるはずである。人口減少対策と小学校の統廃合は逆行している。
  - ・市庁舎に関する意見を前回出したが今回振り返りで触れないのはなぜか。将来の子育て世代に負担がかかる。経費を減らすために統廃合するのに、市庁舎建設に対しては借金するのか。明るい未来と言うものが全く見えてこない。市民会館は、将来公園として活用すると聞いたが、公園にも維持管理費がかかるのではないか。この計画の策定に考え方（意図）が見えてこない。どこに重きを置いた計画なのか。
- 市役所の耐震化については、地域ごとに十分な説明ができていないのが現状である。建設費の82億円という数字は、現在と同規模で試算した額であり、事業費として見込んだものではない。今後、施設規模の見直しなどを行い事業費の縮減に取り組みたい。これからの時代に求められる市役所は、オフィスとしての機能はもとより、情報管理の徹底や災害拠点として機能するよう施設を整備していかなければならない。
- ・市役所を宮寺・二本木地区に新設移転したらどうか。なぜあの場所にこだわるのか。土地代が安価であれば費用も安価で済むのではないか。
  - ・博物館の建設は、バブル崩壊後に行われ100億円程度かかったと聞いている。現在の行政は将来を見据えて計画を策定していると感じる。その点は今までの行政にはなかったことと評価している。
  - ・公共施設マネジメントの中で、マイナスの要素だけでなく、プラスの要素の説明も聞きたい。この取組は、先進的なことなのか。それともこれを行わなければ財政破

綻してしまいそうなくらいな状況なのか。

→社会保障費が増加し、税収が増えないため、何らかの対策を講じなければ行財政運営が立ち行かなくなることは確かである。また、建設当初とは、行政や施設に求められるサービスが変化してきていることも大きな課題であり、見直しを図ることとした。

・この計画を進めていかないと財政は危ないということか。

→以前、ご説明した通り、施設整備にはあまり多くの費用をかけられないというのが現状である。そうなれば安全性の確保や改修工事は難しくなるだろう。

・新たな人口を引き込むための策は何かあるのか。施設を充実させると人口が増えるのか。現在の住民が満足するのであって、移住は難しいのではないか。地域の活性化が第一で、施設の充実はその次に求めることである。

→これからの時代、地域に目玉となる施設を建設しても人口増加は難しい。

・まちづくりの中で、入間市が突出した魅力がないと人口は増えない。

→魅力については、施設だけでなくソフトウェアも含めて考えていきたい。施設だけで解決できる問題ではない。

・健康福祉センターは、健康増進に伴い市全体の医療費を縮減するという目的もあって建設された。しかし、医療費が減ったという話は聞かないので、無駄な施設のように感じる。統廃合してもメリットがなかったという結果も考えられる。違う方向で、税収を減らさない対策を考えるべきではないか。例えば 60 歳以上の人の活用を考えてはどうか。団塊の世代は人数も多く、能力も高い人が多い。働くことで税金も納められる。

・この計画は、予算を考慮していると思うが、時代の変化を考えると 30 年後この通り行くのか不安である。計算上は合っても街並みがどうなっているのかをよく考えるべきである。まちの姿をシミュレーションしてから計画を作るべきである。

→市として、まちのイメージや人口減少対策について具体案を示せなかったのは事実である。将来の地域づくりという点について、住民に話を聞く機会を設ける必要がある。

・学校の保護者を対象にして説明会を実施してはどうか。場所や手法を工夫すれば、人を集めることができる。

・行政の説明会の手法（やり方）については、批判がつきものである。参加者（説明を聞いた人）は、少なからず被害者意識を持っている。入間市へ移住してきた 40 年前は住みやすく、とても良いまちだと思った。しかし、入間市で生まれ育った人はそれが当たり前であり、良さを感じるができないのではないか。